

第二章 本支店の新築及び増築

一 本社関係の新築及び増改築

(一) 淡路町ビル増築



淡路町ビル

丸善製薬販売株式会社の本拠としていた淡路町ビルの隣接地に、昭和三十年の第一期工事に引き続き第二期工事として鉄筋コンクリート三階建一棟を増築することを昭和三十一年四月三十日に決定、同年五月着工、翌年一月竣工した。施工は、第一期工事と同じく清水建設株式会社で、竣工時の延面積は九八三・六四平方メートル、これによって淡路町ビルの延面積は一、三四七・一四平方メートル（四〇七・五一坪）となった。



第二丸善ビル (上) ビジネス・マシンセンター (下)

(二) 第四丸善ビル新築

中央区江戸橋三丁目三番地（現日本橋三丁目十三の六）には従来から当社の倉庫があったが、これも戦災で大きな被害を受けていた。そこで昭和三十二年一月二十六日の取締役会に於て、ここにコンクリート造四階建ビルを建築することを決した。同年一月二十日清水建設株式会社の手によって起工、同年七月三日完成した。延面積六九四・六九平方メートル（二一〇・一四五坪）、用途は倉庫であった。

(三) 第二丸善ビル新築

第二丸善ビル新築は、日本橋通三丁目の本館の建設に続いて、当社としては第二の大工事であった。既に早くからその必要を痛感していたものであるが、事務機械の大型化が益々進む状況に鑑みて、猶予すべきでないと考え、昭和三十四年三月十四日の取締役会で、その建設を決定し、昭和三十四年四月一日起工、基礎工事に直径一メートル深さ二五メートルのコンクリート柱を十五本も打込む難工事を完了して、昭和三十五年二月三日上棟式を、同年十月十七日落成式を挙行することができた。要項は次のようである。

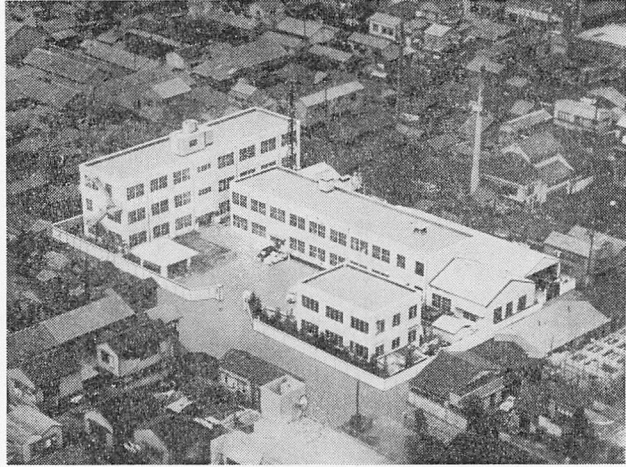
位置 中央区日本橋江戸橋三丁目二番地（現日本橋三丁目九の二）

敷地面積 一、〇六五・八八平方メートル（三二二・四三坪）

建物構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上九階・地下二階建

建物の延面積 一一、七八四・九五平方メートル（三、五六四・九六坪）

工事は清水建設株式会社に一切を依頼、総工費六億二千万円余を要した。



日暮里工場及び研究所

竣工と同時に地上一階及び三―九階を貸事務室に、地上二階を当社事務機械部事務室に、また地下一階は、当社の事務機械の常設展示場「丸善ビジネス・マシンセンター」に、地下二階を倉庫として賃貸する事にした。この建物では、駐車場を屋上に設けエレベーターを使用して自動車を揚げたことは本邦最初の試みであった。

(四) 日暮里工場の改築

東京都荒川区日暮里三丁目七七七番地（現東日暮里六丁目四〇）のインキ工場は、戦後操業開始を急いだため、また資材入手難のため木造であったが、それでは火災等にも不安があるので、昭和三十一年九月十五日の取締役会に於て、工場及び事務所を鉄筋コンクリート造りに改築することを決した。当初の計画では、鉄筋コンクリート造、平家建の計画であった。併し、同じ総建坪

で二階建にする方が敷地内空地を多くし、資材移動に便利でもあり、火災予防上にもよいと考えて、昭和三十二年一月二十八日の取締役会で二階建に変更した。

昭和三十二年二月一日着工、同年七月に竣工した。延面積は工場・事務所合せて一、三九七・五一平方メートル

(四二四・三一坪)であった。

しかし、同工場敷地内には倉庫、研究室その他に使用中の木造スレート葺三階建の建物が残ったが、昭和三十五年七月十六日の取締役会でこの建物を除去して、その跡に、日暮里工場製品の総合研究所を新築することに決定した。

この建物は鉄筋コンクリート造三階建、延面積一、三五六・四六平方メートル(四一〇・三三坪)、昭和三十六年四月一日竣工した。

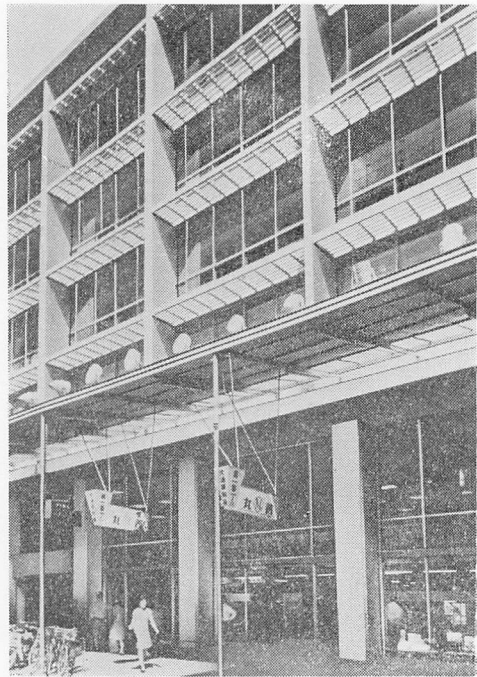
二 支店・出張所の新築・改築

ここでは、店舗の新築及び営業所の拡張といった比較的重要な事項のみを記しておきたい。

(一) 仙台支店店舗及び事務室増築

仙台支店は、昭和二十四年新築したが、とにかく急工事で売場は狭かった。市街も次第に整備され、人口も増加したので、それに応じて、支店の商品の量も多くなり、売場を拡大せざるを得なくなっていた。そこで昭和三十一年三月二十七日の取締役会で売場等の増築を決定した。

昭和三十一年六月竣工、これによって売場の延面積は五三三・七五平方メートル(一六一・四六坪)、事務室延面積三五〇・三二平方メートル(一〇五・九七坪)、合計一、〇五二・二九平方メートル(三一八・三二坪)となった。この増築工事は清水建設株式会社仙台支店の施工であった。



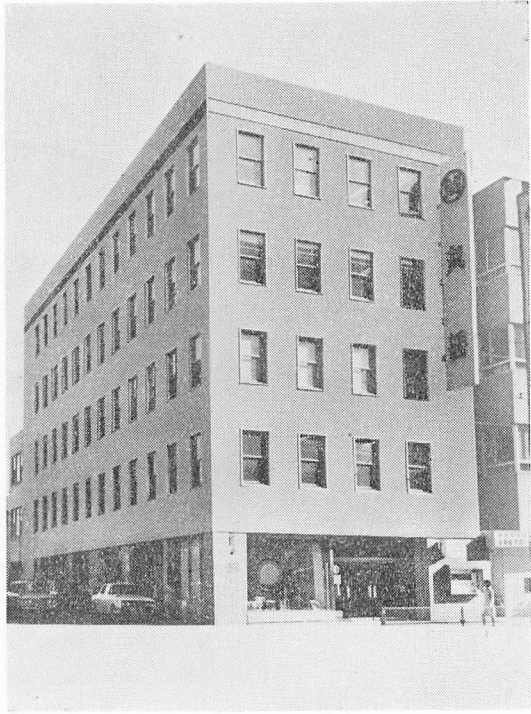
仙台支店東一番丁店

(二) 福岡支店の増改築

近火で類焼した福岡支店は、昭和二十一年に一応店舗を新築したが、それは応急的なものであった上に、手狭にもなってきたため、昭和三十一年九月十五日の取締役会で、本格的に改築することを決議した。そして使用中の店舗を隣空地に移転し、営業を続けながら新館落成後、この仮店舗を取壊すことを決定した。

構造は鉄筋コンクリート造、地下一階・地上五階建、延面積一、八三〇・三一平方メートル（五五三・六七坪）、施工は清水建設株式会社九州支店であった。

その後、業績は年と共に発展、取扱商品も増加し、またまた手狭となったので、昭和三十五年三月十二日の取締役会において応急の策として、同市東一番丁十一番地所在の六階建興和ビルの内、地上一階一、三〇〇・九三平方メートル（三九〇・六七坪）を賃借し、仙台支店の店舗に充てることにし、同年四月から東一番丁店として開店した。この建物は東京都千代田区の興和不動産株式会社の所有である。



福 岡 支 店

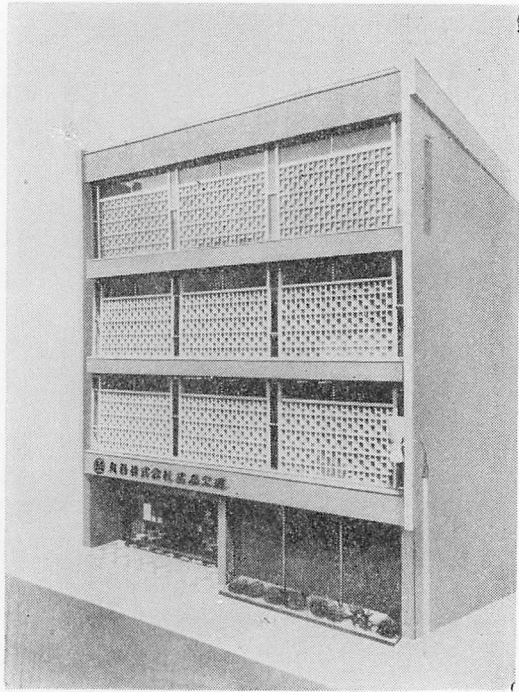
昭和三十二年二月二十二日着工、同年十二月二十日竣工した。この日に先立って、同年十一月十一日の取締役会において、さきに支店建築のために臨時に建築した店舗を取壊し、その跡に鉄筋コンクリート造二階建の事務所を増築することを決めた。延面積は一八二・〇九平方メートル（五五・〇八四坪）であった。

この事務所の増築によって福岡支店の店舗は完全に新装を了ったことになるわけである。

(三) 広島支店新築

昭和三十五年九月一日の臨時取締役会で、広島支店新築のための用地として、住友海上火災保険所有の広島市革屋町三十番地の土地と、当社所有の東京都千代田区神田小川町三丁目三番地ノ八（神田支店跡）の土地を交換することを決めた。

かくして同年九月二十七日、広島支店新築を決し、十月六日着工、翌三十六年四月四日竣工した。鉄筋コンクリ



広島支店（4階増築後）

1ト造三階建、延面積一、二八二・九七七平方メートル（三八八・一〇一坪）、施工は鹿島建設株式会社であった。